第７回碩田中学校区適正配置地域協議会　会議要旨

日時：平成 25 年 4 月 16 日（火）18：30～20：30
場所：大分文化会館　第２小ホール

○出席者３６名、欠席者２名

１．開会のことば

・江藤副会長より、開会のことば。

２．会長あいさつ

・吉田会長より、開催に当たってのあいさつ。

３．「わが家の防災マニュアル」について

・わが家の防災マニュアルについて防災危機管理課より説明があり、その後質疑応答を行う。
＜主な質疑応答＞

【委　員】Ｐ14 の津波・地震ハザードマップの見方について、色分けによって浸水深を示しているが、水色は浸水深が非常に浅いので、海抜が高いという見方で良いのか。

【説明者】県の浸水想定に基づいて津波・地震ハザードマップを作成しているが、おそらく海抜が高いところは、浸水深が浅くなっているという状況が見られる。

【委　員】Ｐ2 では活断層型地震の発生確率を掲載しているが、活断層に起因する地震の発生確率はデータ不足のために、発生確率が低くなりがちではないか。例えば阪神大震災が発生した六甲・淡路活断層帯の 30 年確率は、当時 0.02%から 8%だったので、最大で 30 年以内に 4%、100 年以内に 10%との発生確率の数字が出ていることは重く受け止めるべきではないか。地域協議会では、50 年後までの校舎の建設関係を考えているので、その意味では活断層型地震は決して侮れない。

【説明者】学識経験者がこのような確率を示しているが、行政としてもこれをよしとしているわけではなく、このような地震も起こりうることは当然考えている。そのようなことからハザードマップでは、別府湾を想定震源とする地震の予想津波到達ラインを示している。

【委　員】Ｐ9 では防災サイレンと鐘音の信号パターンを掲載しているが、津波や洪水をいち早く正確に地域住民に知らせる方法を考える必要がある。一番頼りになるのは市役所の発生するサイレンだが、そのサイレンの鳴るイメージが分からない。また、大分市ではいつ頃からこういうことを市内一斉に適用するのか。

【説明者】大分県の統一したサイレンのパターンを本マニュアルで示している。サイレンのイメージについては、ホームページ等で鳴り方を示したり、自治委員を通してデータの提供などを考えている。また、市内の全ての住民に情報をいち早く伝えるように整備をするとなると莫大な費用がかかるが、様々な情報伝達手段があるので、どういう形態で費用も踏まえながら、今年度中には具体的な対策を考えたい。

【委　員】Ｐ6 の別府湾の活断層型地震における最大津波高および到達時間を掲載しているが、

豊海５丁目では１m.の波高到達時間は 17 分となっている。Ｐ37 では水の流れが速い場合は 20cm でも危険になると記載されているので、その段階で逃げる必要がある。この 17 分という時間が一人歩きすると、時間的に余裕があると理解されると非常に危険ではないか。

【説明者】このようなことを知っておいた中で、やはり早めに避難をするといった行動をとっていただきたいと思っている。津波では色んなパターンがあるので、とにかく大きな地震の場合はすぐに高台へ避難していただきたい。

【委　員】Ｐ9 の津波から避難する３つのポイントの中で、原則として避難には車を使わないとあるが、大分市の場合は特例として車で避難して良いという地域を定めたりするのか。また、中心部についてはどのように考えているのか。

【説明者】地域を指定することは今のところは特に考えていない。東日本大震災では交通渋滞により避難が困難であったので、なるべく健康な方は原則として徒歩で避難する行動をとっていただきたい。中心部の地域でも車を使わずに徒歩で高台の方に避難をしていただきたいが、新たな津波避難ビルや避難所などを選定することも必要になってくると思うので、市としてもそのような対策に努めたい。

４．議事

（１）地震、津波対策等の防災について

・観点の表に基づき中島校区から提出された資料について協議をお願いしたい。

【委　員】中島校区だけの資料で協議するというのは非常に難しい。３小学校区の資料がそろった段階で協議した方が良いのではないか。

【委　員】中島校区からの説明は次回お願いしたい。それぞれの校区が防災についての資料を提出したうえで協議を始めたい。

【委　員】それぞれの校区が提出した資料に対して、意見を言うことはあまり好ましいことではない。なぜなら私たちは防災に関しては素人なので、素人同士が意見を戦わせていくということは、感情論になるだけではないか。

【委　員】中島校区から提出されたものには、４校区のどこに設置されても共通の考え方の部分も多く出されている。また校区の特徴としている部分もある。そういう中で共通の部分を論議し、また各校区の特徴というものも説明をしていただくという形で協議してはどうかと思う。

【委　員】観点例の予想される津波等の影響の中に、在校時と登下校時というような観点を取り入れていただきたい。単に在校時だけの安全性が確保されれば良いというわけではなく、登下校時の安全性がどの程度影響されるかということは非常に重要なポイントだと思う。どこの場所に新設校を設置するかによっては、登下校時の安全性に大きく差が出てくる。また、在校時でも運動場の一番端にいたときに、小学校１年生が最上階までかかる時間等の観点も必要なのではないか。

【委　員】海溝型地震と活断層型地震では違いがあり、海溝型地震では津波に対する避難に比較的時間の余裕があるが、一番最悪の場合を想定して考えるのがこの協議会だと思う。活断層型の対応を十分に協議すれば、海溝型地震にも対応できる十分に安全なものになるので、各校区でも考えていただきたい。

【委　員】防災マニュアルの中では地震の発生確率は、活断層型地震で 0.03～4%、海溝型地震 60%程度となっている。これは単に数字が少ないからさほど危険性はないという見方というのは確かに危険かもしれないが、専門家が色々調査をして予測しこのような差があるので、まず考えなければならないのはやはり海溝型地震だと思う。また、活断層型地震まで考えるならば非常に影響が大きく、とても協議会の中で議論するような話では収まらない。そこまで考えるのであれば、その校区で考え方を整理して次回提出すればよいのではないか。

【委　員】今後の児童生徒の生命の安全性を考えるべきと思うので、最悪の事態に対して現時点で我々はどう判断するのか、そしてそれを判断したことによって今後の子どもたちにも影響があるわけなので、その安全性に対して非常に大きな責任をもってこの場に臨んでいる。また、地域の方も心配しているので、それを代弁する形でこの場で発言している。

【委　員】地震・津波対策について、海溝型地震がどうか、活断層型地震がどうかという話は多分まとまらないと思う。各校区それぞれがこう考えると発表し、それに対して納得がいくのであれば、次の議題に進んでいくというような形が良いのではないか。

【委　員】防災について第８回、第９回で協議を収束するなど、終わりを決める必要があるのではないか。

【委　員】次回は、各校区から防災についての考えを提出していただき、それに対して論議をしたい。今回も色々な意見が出たが、次回の会議でも引き続き論議していただければと思う。

○小学校区ごとに防災に関する考え方を示す資料を作成し、その内容について次回協議することを確認する。
○今回出された協議の前提条件などの意見に対し、次回も引き続き協議することを確認する。

（２）その他

・次回以降の日程について説明する。

○第８回地域協議会を 5 月 14 日（火）の 18：30～20：30 に、第９回地域協議会は 6 月 25 日（火）の 18：30～20：30 に、いずれも大分文化会館第２小ホールで開催する。

４．閉会のことば

・瑞木副会長より、閉会のことば。